

■会長挨拶

デジタルとアナログ、理論と実践。日本と世界。これらの健全なコンフリクトの中から、知の世界とその実践は発展してきました。それを組織として担うのが日本ナレッジ・マネジメント学会です。

日本ナレッジ・マネジメント学会は極めてユニークな学会です。学会員は企業の第一線で活躍する方と最先端の研究を行う学術研究者から構成されます。理論を磨き上げると共に、それをいかに実践につながるかを重視します。ガバナンスも組織運営も企業の第一線で活躍する方と最先端の研究を行う学術研究者のチームワークで行われます。

日本ナレッジ・マネジメント学会はオープンで、フラットで、そして何よりも楽しい場 (intellectually fun!) です。知とその実践の最先端を切り開くために、より多くの方が会員になり、日本を、世界を、より良い社会にできればと願っています。

ぜひ、このような
エキサイティングな場
にご参加ください。



日本ナレッジ・マネジメント学会
会長 一條和生

■設立の目的

21世紀に入り世の中は益々混沌、かつ、複雑化しています。各国の企業経営は世界が狭くなるにつれて、グローバルに見る目が要求されてきています。

人類は誕生以来数々の経験を基に知識を蓄積し、また、新たな知識を蓄積しつつあります。知識を使うには、使うための知恵が必要です。知恵は学習することも出来ますが、その本人固有の経験が大切になります。ナレッジ・マネジメントで言う暗黙知の世界になります。

知識はぶつかりあうことが大切で、特に異種の知識の交流は新しい知識を生み出す可能性が高い。換言すれば、ハイブリッドの効果です。ハイブリッドを生み出す場が必要になります。

学会は単に研究するだけでなく、広く研究成果を世界と共有し社会に貢献することを目的としています。

■主な役員一覧 (2019年8月27日現在)

会 長
一條 和生 (一橋大学大学院教授) * 理事長を兼務

副 会 長
加護野 忠男 (甲南大学特別客員教授)

評議員会議長
飯島 彰己 (三井物産(株) 代表取締役会長)

評 議 員
安達 一彦 (株)インテリジェントウェイブ 創業者)
佐久間 万夫 (株)Eパートナー 代表取締役社長)
常盤 文克 (元 花王(株)会長)

詳細な役員一覧はこちら

<http://www.kmsj.org/intro/page-28/>

■入会のご案内および会員種別

当学会は、ナレッジ・マネジメントに興味を持ち、研究意欲を有する法人/個人であれば、特に入会資格を制限しておりません。志のある皆様のご入会をお待ちしております。

法人会員：年会費 一口につき100,000円(入会金なし)

個人会員：年会費 8,000円(入会金なし)

いずれも「入会申込書」に必要事項をご記入の上、下記の当学会事務局宛まで郵送下さい。登録内容通知書ならびに学会誌をご送付いたします。

⇒ご入会についての詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.kmsj.org/intro/page-30/>

■当学会へのお問い合わせ

日本ナレッジ・マネジメント学会事務局
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町518 司ビル3F
国際ビジネス研究センター 内

TEL 03-5273-0473
E-mail kmsj@ibi-japan.co.jp

⇒当学会HP
トップページ <http://kmsj.org/>



日本ナレッジ・マネジメント学会

ICTの進展に伴う新しい産業革命やAI・IoT等の深化は、グローバルビジネスや社会に大きなインパクトを及ぼしています。

人類社会や地球環境の持続性に貢献する新たなKMの理論と実践が不可欠です。

本学会はKMで世界と繋がり
価値共創を促進するミッションを
知の創造の場を通して果たします。



■ 個人会員入会のメリット

当学会は年に1度学会誌を発行しています。

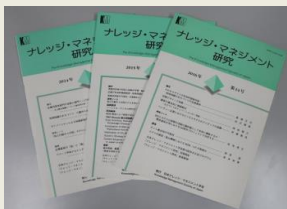
会員が投稿でき、投稿した原稿は、編集委員会のレフェリー2名による査読審査を受けます。投稿ジャンルは、論文、ケース・スタディおよび研究ノートです。

院生はじめ研究の実績を挙げていただくためのプロセスが整っています。学会に所属し、研究部会での発表、年次大会での報告、そして学会誌に研究成果を投稿でき、またこれらの研究成果の発表に伴い適切な助言やコメントが得られます。

論文とは、ナレッジ・マネジメントに関して、理論的、実証的に本学会の学術研究として相応しいオリジナルな研究成果をまとめたものであり、問題提起・方法論・分析結果とその理論的考察・明確な結論を備えていることが必要です。

研究ノートでは、先行研究を多数引用し、それらの成果や問題点について解説したもの、または、独自の調査やオリジナルな個別事例についての結果・報告です。ナレッジ・マネジメントの研究を進めていく上で資料的価値を認められることが必要です。

なお優秀な論文は、英文電子ジャーナルJJM誌への掲載を推薦しております。



■ 他学会、他団体との交流

当学会では、さまざまな国内外の関連学会および関連団体との積極的な交流を図っております。

経営関連学会協議会

<http://jfmra.org/>

KMGN (Knowledge Management Global Network)

<https://kmglobalnetwork.net/>

■ 主な大会の概要ご紹介

第22回年次大会▼テーマ「AI時代のナレッジ・マネジメントのあり方」▽2019年6月9日(日)▽金沢工業大学KIT虎ノ門大学院キャンパス

▽特別講演1 経済産業省商務情報政策局情報産業課 ソフトウェア産業戦略企画官 博士(工学)和泉憲明氏 ▽特別講演2 日本アイ・ビー・エム株式会社 理事/パートナー/AIコンピテンシーセンター グローバル・ビジネス・サービス事業部 鈴木至氏 ▽パネルディスカッション「新しい時代を迎えるナレッジ・マネジメント理論の提案」(SECIモデル～ISO 30401/データドリブン時代) 鈴木至氏、山崎秀夫氏(副理事長)、西原(廣瀬)文乃氏(専務理事)/モデレーター:野村恭彦氏(理事)▽ほか自由論題報告

第21回年次大会▼テーマ「イノベーションを起こす組織: 知を創るプロセスを創る」▽2018年5月26日(土)▽立教大学池袋キャンパス

▽特別講演「知的機動力の経営—日本型イノベーションの本質—」橋大学名誉教授 野中郁次郎先生▽ダイアログ1:「イノベーションを起こす組織: 知を創る間接部門の機動力」西原(廣瀬)文乃氏(専務理事)/株LIXIL情報システム本部 Information Excellence部 村上修司氏/一般財団法人公務人材開発協会 菊池敦子氏/株内田洋行 知的生産性研究所 平山信彦氏▽ダイアログ2:「イノベーション企業にみるトップの役割」大西幹弘氏(副理事長)/近畿大学 准教授 筒井真理子氏▽ダイアログ3:「オープンイノベーションと価値創造」植木英雄氏(専務理事)/コニカミノルタ株式会社ビジネスイノベーションセンタージャパン所長 波木井卓氏▽ダイアログ4:「イノベーションを起こす組織を創る」高山千弘氏(専務理事)/富士通株式会社デジタルフロント事業本部長代理 柴崎辰彦氏▽ほか自由論題報告

第20回年次大会▼テーマ「AIと人の価値共創は可能か—加速する企業イノベーションとナレッジ・マネジメントの課題—」▽2017年3月18日(土)▽東京経済大学国分寺キャンパス、大倉喜八郎進一層館ホール

▽基調講演「知識活用による企業イノベーション」ヤマハ(株)元会長 岸田勝彦氏▽特別講演「AIと人の価値共創とデータサイエンティスト」横河電機(株)執行役員マーケティング本部長 阿部剛士氏▽パネルディスカッション「AIと人の価値共創」山崎秀夫氏(副理事長) 阿部剛士氏(横河電機執行役員)、小門裕幸氏(理事・法政大学教授)▽大会テーマに関連する2報告と2つのパネルディスカッション▽ほか自由論題報告

日本ナレッジ・マネジメント学会には複数の研究部会ならびに部会が存在し、特色ある活動を実施しております。

代表的な研究部会・部会を下記にご紹介します。

■ 知の創造研究部会



先進企業における知の創造はどのような要因や条件により促進されるのか? 企業内外の環境変化に適応した知の創造と経営革新のプロセスを事例や実証研究などで解明し、成果の発表・討論を行います。また、オープンイノベーションのワークショップ等も行い知の共創能力を開発します。

■ 実践ナレッジ・イノベーション研究部会

参加者の皆様に、知識創造経営理論(野中理論)に基づくナレッジを基盤とするイノベーションの実践を通して、知見を得て頂くことを目的とします。



■ 東海部会



主として中部地方の優良企業を取り上げて、企業分析や企業訪問などの活動を行います。なお、部会活動の基盤は名古屋近郊です。

